

令和５年度「日田市農業振興ビジョン」推進委員会議事録

R5.7.13(木) 10:30～

7階中会議室

1. 開会（農業振興課長）

2. 推進委員会委員紹介

3. 委員長あいさつ

4. 議題

（１）品目振興の令和４年度実績値について

（２）第６次日田市総合計画第３期基本計画見直しについて

（事務局）

資料にて説明

5. その他

省略

意見集約

【品目振興の令和４年度実績値について】

- 1) ピーマンについては、日田市で約1.1haの作付け面積で、県農協では農業政策の中で短期集中品目として位置づけて推進をしているところです。指導体制については、ピーマンの広域普及員が、県下全体を担う指導員の巡回の中で、県全体の栽培技術のレベルアップをしようと有田の方にも定期的に巡回に来ていただいています。西部エリアの指導についても玖珠、日田と合わせたところで、1名体制の中巡回をしております。その中で日田市のピーマンについては後進の産地ということで、まだまだ栽培の技術の問題、圃場の排水の問題等色々ありますのでそういうところを改善しながら面積拡大、収量拡大について取り組んでいるところであります。

ニンニクについては、現在4haの規模で、こちらの方も拡大品目ということで、日田の方も広域普及員の指導員を設置した中で取り組んでいます。

ただ栽培上、どうしても高温等の中での栽培が現実的にまだ確立されていない部分があるので、どうしても収入や単収が低いという部分があります。その部分を改善しながら拡大に今取り組んでいる状況です。

2) 梅については、令和4年度は180+位です。これは市場出荷分で、農協で扱っている分とガルデンの分を合わせたものです。農協出荷が150+、ガルデンが30+位です。その他、梅は町内の梅酒工場に約20+の梅が行ってます。大山が勧めている独自産業化ということで、各家庭で梅干しの加工をしています。調査をしてみると、おおよそ市場出荷と同じくらいで150+ありました。大山全体で360+位の梅が生産されているようです。生梅での換算をするとおおよそ1億2千万円くらいになります。それが梅干し加工となり、またまた増えるということのでかなりの額の梅が大山町に出回っている現状です。令和3年度と令和4年度では変わりなく、今年もほぼ令和4年度と同じような状況です。現在、梅・すももの再生プロジェクトが行われていますが、梅に関しては新品種というか自家受粉できる品種、それから南高の欠点を改良したような新しい品種の植栽の実験をしているところです。合わせて独自産業化に向けて農家の方をお願いしているところです。

すももについては、春先の気温が非常に影響します。今まで受粉時の霜害のことをずっと考えての実験を2年間取り組んできました。でも今年は雨で受粉ができなかったのも、これから受粉の方法を、多少の雨が降っても受粉できるような溶液受粉といった研究も併せてやっていかなければいけないと強く感じております。

また、すももの棚については、棚無しの栽培方法を現在、試験で1反位取り組んでいるところで、できるだけ経費がかからないやり方を考えているところです。

単収については、現在すももは40万円ですが、50万円にすることでおおよそ1億円に到達するということなので、その目標に向けて取り組んでいるところです。

先日の雨で早生の品種については、非常に良かったのですが、中生のローズに関しては落下と劣化でほぼダメになりました。青くても落下しているものもあります。今年度は非常に厳しい状況があります。また、受粉対策と雨除けの対策等については、目標値の達成に向けて考えているところです。

3) ピーマンについては、露地栽培となりますので天候の影響を受けやすく、個別に農薬散布の指導などをしていますが、単収をあげていくためには被覆、ハウスなどを検討していかないと難しいと思います。大きなハウスを造るとなるとコストがかかるので個別に検討していく必要があると思います。排水性がよくないと、根が水に弱いので、そこは現状で田んぼにしか作付できないのであれば、土壌調査等行って排水対策の提案もできますし、そういった対応も随時していきたいと思っています。

4) 甘藷についてです。現在推進品目ではない状況です。こちらの方は、農業振興ビジョンを作成する段階では貯蔵庫が西部地区にはないとのことで推進品目から外れていますが、市内の中でやはり水田畑地化作物として甘藷というのは今伸びていますし、また白菜をやめて甘藷に切り替えている生産者も増えている状況です。今後の検討課題として甘藷も推進品目として入れた方が良いと思います。

5) 甘藷については、日田管内、現在4ha位栽培面積があります。貯蔵した中で甘太くんという全農のブランドの中で販売していますが、貯蔵庫が現在西部エリアにはないということで、県南の方の県農協の倉庫に輸送をかけて貯蔵しているという状況であります。その貯蔵の関係や、当初苗の確保の課題等色々とまだ課題解決をしていないことが農協内

部として色々あります。現在としては、ニンニクよりも甘藷の方が増えつつあるのかなと感じています。どうしても大規模になるので、大型機械とか面積とかある程度限られてくるとは思いますが、ひとつの品目として入れてもいいのかなと思います。

- 6) 畑作物としては甘藷を露地で面積的に作れるということで取り組もうとしていますが、単収が上がらない、品質が悪いというのは、水田での畑作物に対して、なかなか収入を上げるのは難しい部分があるので、県等の指導を仰ぎながら畑作に向けた土壌を作っていくのがひとつ課題かなと思っています。作物としては入れてください。水稻に代わる作物は今は甘藷しかないと思います。

【第6次日田市総合計画第3期基本計画の見直しについて】

- 7) 酪農業については、先ほどの令和4年度の実績のように少し減産の傾向にあります。これは全国的に生産抑制、生産調整まではないですがもう少し生産を抑えてくれという動きがあり、九州全体でも生産量を落としていったというところ です。
- もうひとつは飼料です。輸入粗飼料や配合飼料を中心にロシア、ウクライナの関係もあり、昨年に比べるとコストが1.5倍くらいになっています。現状の受け入れは立ち行かない現状になっており、コストの方が乳価に対して追いついてないというところで、かなり厳しい状態が続いています。国も県も、自給飼料を積極的にこれからは作っていかないといけないという流れになっているので、且つ生産者の方々も輸入飼料に頼っていくのはかなりきついという考え方に変わってきているので、これからはほぼ間違いなく自給飼料を増産していくという傾向になっています。日田市に広大な土地がなかなか無いということや、色々課題があります。現状としては、自給飼料をもっと作っていききたいという気持ちはありますが、問題として、機械の導入や労働力、土地の問題がネックになっているところ です。
- 8) 生乳の動向としては、新年度始まってからも前年と比べると少し生産量が落ちています。昨年 から今、夏にかけて少し乳価が上がったので、今から夏に向けて生産をしていきたいというのがありますが、現在非常に経営が苦しいので採算に合わない牛とかは、少し選抜して淘汰している状況です。頭数も少し減っている ので、これから再生産が出来るのかというのは未知数ですが、夏は乳牛も乳量が出せない ので出荷量が全体的に落ちるので、需要は夏が一番多いので生乳が少し足りなくなるというの はあります。補助金としては国も県も、飼料高、特に輸入粗飼料と配合飼料に関しては補助金を いただいたのでその点では少し助かったというところ はありますが、それでもかなり経営は厳しい状況です。
- 9) 先月、日田でも酪農家が廃業、玖珠でも廃業が出ました。今後どこで、どれだけ廃業していくかは全く分からないのが現実で、国内で粗飼料の生産と簡単に言うがどれも機械自体が高く何百万、何千万単位の機械となります。また、全ての圃場に猪や有害鳥獣のネットをしな いといけない等色々大きな課題があります。乳価は上がるにしてもとても購入飼料には追いつかない。当てにしていた子牛、和牛あたりも酪農家が受精卵で生産していますがその価格も先月も下がっています。それで当てにしていた子牛も価格が下 がって、辞められる酪農家はいい方で、辞めたくても辞められない酪農家 がかなりあるとい

うのも現実です。

- 10) 日田は一番、平均飼養頭数が多い。100 頭 200 頭クラスで労力的に果たしてできるかという疑問もあります。何人かが地区や共同でお互いが助け合って機械一台では対応出来ないから共同でやっていく、そういう立ち上げ方しかないかなと思います。これもいつでもできる訳ではないし天気にもよります。雨が降った後とかは機械も入れないので、そこの地域で組織を作っていくしかないかなと思います。

【農研の現状について】

- 11) 農研の現状としては、新しく加入された 20 代の方がいるので、その方が結構私たちの感覚とは全く違うので、現状に縛られないやり方を常に考えているのでそこは凄くありがたいと思っています。

まだまだ増やしていくというよりは、自分たちがどのくらい出来て魅力的にしていけるかというのが勝負になってくると思います。仕事以外にも時間を取られるので、強制的に入ってもらっても厳しいなと思います。経営者である親の下で農業をしている方、または自分自身で経営されてる方もいるので、自分たちでそこをどう発信していけるのか。また、他県の最前線でやられている方の話をしますが、やはり自分たちがどのくらいの労力でできるのか、という分も自分たちはどちらかというと経営の面に回って、他の人を動かしていけるのかというところがポイントになってくると思います。そこはやはりコミュニケーションをとる場があるので、その辺は話しをしながらまとまってやっていけるのではないかと前向きというか若い方がいらっしゃる分、未来が少しでも見える方がモチベーションも上がります。

- 12) 前から思っていたことですが、農業なら農業の業種毎の青年部等あるといいと思います。共通して話も分かるし、悩み事も分かります。今仕事に出る後継者が結構多いです。県農協さんや大山町農協さんにはそういうのはあると思いますが、業種毎の例えば椎茸なら椎茸、稲なら稲の青年部を無かったら立ち上げてもらいたい。

- 13) 知り合いに果樹や施設園芸の方が多く、業種毎に感覚が違うのですが、もう少し言うならば県外の農業以外の方とコミュニケーションを取って、ある程度固執した考えを何処かしら叩かれた方がいいのかなと最近思うようになりました。スマート農業についても、どちらかという言葉に踊らされている感じなので、スマート農業とは何なのかと突き詰めていくには、自分たちよりも第三者から客観的にみてもらった方が色々ヒントをもらえると思うので、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

- 14) 私は 6 次産業という形で食品加工をしています。そういった方の女性の集まりが A F F 女性ネットワークというもののなのですが、これは西部地区だけではなく大分県で女性が集まる場所として、大分市内などで色んな業種の方が集まる会です。交流の場として、新たな情報の入手等、自分の思い描いている形を導き出せるような会です。

- 15) 県も国も言っている通り、儲かる農業、儲ける農業というのが前面に上がってきてい

ます。農作物の加工など6次産業が一番大事なことです。今までの農家というのは自分の作った品物を家の方が毎朝、市場出荷されますがやはり一番利潤が儲かるところを農家の方は持っていませんでした。6次産業化で特に大山町の梅については素晴らしいと思います。A F Fの活動を通じて、販路を拡大することを私は大事なことだと思っていますのでよろしくお願いします。

【集落営農の現状について】

- 16) 個人では農業も維持出来ない中で、集落で農地を守ろうという取り組みをしてもう十数年経っています。過渡期といわれてもう何年かになりますが、組織自体が、また構成員が若返っていかない、オペレーターもいないという中で非常に厳しい現状です。こうした中で、これは目標でも組織からして法人化というところで、法人化したら今度は経営を支えないといけない、収入を上げないといけない、収入を上げるためには作物を選定してこれを何とかするとなると、そこまで踏み切れないというのが現状です。小さな集落では当然出来ないのも、法人で連携して他の集落と共同でしましよと言っても日田の山間地でやられている集落で考えると、集落を越えてやるとすれば人の交流やオペレーター同士の交流、機械を共同で使っていこうという取り組みもしていかないといけない。いずれにしても組織として経営していかないと、水田農地は守っていけないというところなんです。そういった農地がまとまっている所があるかということ、ある程度圃場整備をした所が生き残っていくということで本当に山間地、中山間になると、どう農地を守るか、荒廃農地をどう解消していくかということが現実化している。山間地については本当に厳しい現状ということで集落維持と併せて農地を守るというような時代になってきているのかなと思うところです。
- 17) 耕作放棄地の解消については、国・県・市と支援がありません。今度市長に出す意見書の方にも書かせていただきますが、耕作優良農地だけでも守るためには市や県の支援がなければできませんので、どうかよろしくお願いします。
- 18) 酪農で数年前に子に継承し規模拡大を行いました。堆肥まで手が回らなくなり私が堆肥を作って散布をしています。この地区は、土が赤土でスイカ、白菜、梨も素晴らしい農家が生産されています。青年部の市長へのスイカの贈呈式の際に、後見人として同行し座っていましたが、昨年から本格的にスイカの光センサーによる糖度あるいは空洞の検査が出来る施設を作っていただきました。今毎日のようにOBSが「日本の力」の取材に来てます。来月には全国放送をするということで、そうすると天領スイカの引き合いがあるのではないかと考えています。聞いたところによると糖度が15度とかそういう品物も東京のほうでは一玉1万4、5千円で買いたいという話がきていると聞いております。来年から一人新規就農者も入る予定ですので、彼らのためにもまず後見の中で堆肥や土づくりをしながら安全安心な素晴らしいスイカ、白菜等を作っていけるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。

【担い手の育成について】

- 19) 担い手については、今の農業を支えている人たちをしっかりと支えながら、また新しい方を見ていくというところで、もちろん生産流通部、農山村振興部とで連携を図り取り組みをしていきたい。また他の地域からきちんとこの農地を使ってほしいといういい方針があれば、そういったところも取り組みを示唆しているところです。それは続けていきたいと思っています。

ビジョンのところでお話をさせていただきたいのですが、県としては市、農協と一緒に連携した取り組みというところで進めていく必要があると思っています。そういった中で、先ほど出ました甘藷のことについて当然県も一緒に課題、貯蔵庫だけではなく苗の問題とかもありますので、この辺は一緒に課題解決をするということを支援しながら、取り組んでいきたいと思います。

県の方の長期ビジョン、農業のビジョンを見直しする作業に実際入っております。すべての方にご意見は聞けませんので、何人かの方にアンケートをとらせていただきながら、そういった地域の実情、それから生産者の考え方というところをまとめて県の方で、また精査しながら次の計画につなげていくという作業をやっていきますので、そういった中にまたこの地域の現状、日田市の現状、考え方というところでもできるだけ反映していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

- 20) 担い手については、コロナ等の関係もありまして、ファーマーズの募集活動が対面で行いづらかったというような経過がありまして、ここ数年入校者が少し減っているというのが現状です。特にファーマーズスクール管内を見ると、11月に九重の椎茸の2名が卒業すると、もう日田市の3組4名だけになってしまいます。コロナの関係も5類の関係も含めて、また県内外の就農フェア等の強化もしていきながら新しい人材の発掘についても努めていきたいと思っています。日田市さんのご支援という積極的な部分も我々と一緒にお願いしたいなと思っています。よろしくお願いします。

- 21) 新規就農者の確保、担い手作りについては、やはり今若い方々が次の世代へ頑張っているとしていく時に、どうしてもまた次のその下の世代という形になっていきますので、新たに日田以外の所から入ってくる方々を増やしていくという取り組みももちろん、そしてなお且つ後継者として残っていただく方を育てていくという政策も必要だなと思っています。また、人手不足というところはどうしても避けて通れないので、いわゆる短期のアルバイト等、農業を今後推進していくためには必要な部分だと思っています。簡単そうで結構難しいところかなと思っていますので、農協さんや県と一緒に連携しながら、日田に合ったやり方というのも考えていかないといけないのかなと思います。また、AFFでの女性の集まりについてですが、女性のみなさんが農業もやりながら、加工もしながらという集まりだと思いますが、女性の力が元気だと全体的に活気が溢れると思うので、色々な機会でもAFFの中での話とかそういうのも出させていただきながら話ができるといいのかなと思います。どの分野も女性が元気だったら、何か元気になりそうな感じがしますので、ぜひよろしくお願いしますと思います。

6. その他

- 22) 梅の加工でみなさん紫蘇を作っていると思いますが、その紫蘇の加工以外の生の紫蘇

としての価値や販売の部分についてどういう風に考えているのかお聞きしたい。ジュースだとか、別の使い方、もしくは生の葉っぱでの需要もありますよというところが、もし分かれば教えていただきたいと思います。

- 23) 梅再生プロジェクトの中で梅を増産するためには、加工用の紫蘇が必要だということで去年から契約栽培を開始しました。日田市の畑地化枠の補助金の対象品目にもあげていただき、かなりの量の紫蘇が現在各農家さんで植えられるようになりました。それでも、今大山で賄う紫蘇が足りないような状況です。一部は農協でも購入しています。農協自体でも 203 樽のハウス紫蘇を栽培していますが、それでも足りません。6 次産業化で一番出る分と同じくらいの量の梅干を農家さんが漬けるということでもまだまだ不足な状態なので、今梅干の分で精一杯な状況です。その他に、塩に梅を混ぜたものや、紫蘇ご飯を作る素とかそういうのは作っています。梅干用の紫蘇という梅酢につけたものは取り組んでいるのですがそれ以外のことは手が出せていない状態です。

7. 閉会（事務局）